

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 105人 国語B 105人

② 数学A 105人 数学B 105人

③ 理科 105人

5 留意事項

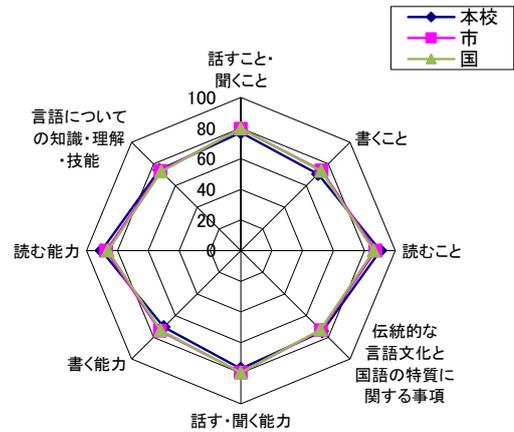
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

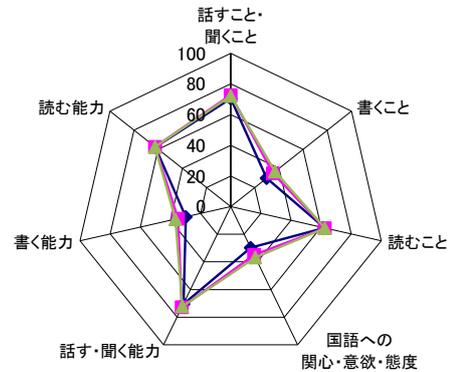
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.1	79.5	79.7
	書くこと	70.7	74.1	73.6
	読むこと	90.3	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.5	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.1	79.5	79.7
	書く能力	70.7	74.1	73.6
	読む能力	90.3	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	74.5	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.5	72.8	72.2
	書くこと	29.8	35.0	36.7
	読むこと	62.4	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	29.8	35.0	36.7
	話す・聞く能力	70.5	72.8	72.2
	書く能力	29.8	35.0	36.7
	読む能力	62.4	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校の生徒は、国語が好きで、学習内容が将来役に立つと考えている。学習意欲が高く、授業の内容はおおむね理解できていると感じている。
●書くことに対する苦手意識が強く、自分の意見や考えをまとめることに自信がないため、発表することを避ける傾向がある。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

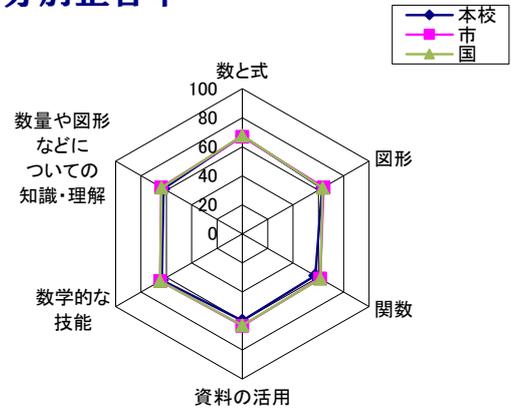
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市と全国平均をやや下回っている。 ○相手の反応を踏まえて話すこと、聞き手を意識して分かりやすい語句を選択して話すことができる。 ●必要に応じて質問をしながら聞き取るということに関して力不足である。	・定期的に関き取りテストを行っているが、これを行う前に、学習した後、再度聞き取るポイントを確認させる。 ・授業中、意図を踏まえて質問ができるような聞き取りテストを行うことで、補充していく。
書くこと	●市と全国平均をやや下回っている。 ○書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫することができる。 ●資料の提示の仕方を工夫する理由について、自分の考えをまとめる力が不足している。 ●様々な資料や文章を読み、自分の考えをまとめることが苦手な傾向がある。	・授業中に、自分の意見や考えを発表する、まとめる学習内容を取り入れて補充していく。 ・自分の意見をまとめることに抵抗がある生徒が多いので、短い文を作らせることから、組み合わせるように授業の展開を工夫する。
読むこと	○市と全国平均を上回っている。 ○登場人物の心情や行動に注意して、内容を読み取る力は身に付いている。 ○目的に応じて要旨を捉えたり、表現の特徴を捉える力は身に付いている。	・登場人物の心情を読み取ることや要旨をまとめる学習内容の際に、ポイントを確認した上で、読み取らせるようにしている。これを継続していく。 ・説明的文章の構成を捉える力を身につけるための学習活動を充実させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市と全国平均をやや上回っている。 ○漢字の読み書きは、だいたい市の平均くらいである。 ●表現技法と語句の意味についての理解が、やや不足している。	・漢字の読み書きについては、補助教材を利用し、家庭学習させている。一定の成果があったので、継続していく。 ・語句の意味については、短文を作らせることを通して、補充していく。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

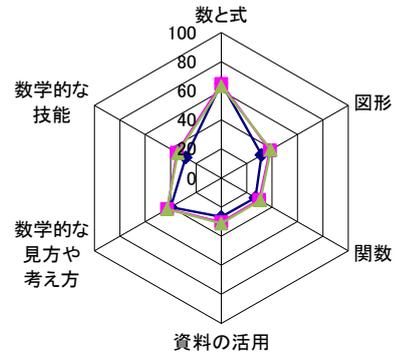
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	67.5	67.0	67.7
	図形	63.0	64.1	63.4
	関数	57.5	61.4	61.7
	資料の活用	59.8	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	63.6	64.8	65.0
	数量や図形などに与える知識・理解	62.3	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	65.2	64.8	63.2
	図形	31.7	38.3	39.0
	関数	26.9	29.9	30.7
	資料の活用	26.7	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	39.9	42.6	42.8
	数学的な技能	28.1	34.9	34.2
	数量や図形などに与える知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「数学の勉強は好きですか」という問いに対して半数以上の生徒が当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えている。また「数学の勉強は大切だ」「授業内容はよくわかる」「数学で学習したことが社会に出て役に立つ」という生徒は80%超で、ともに県、全国平均を上回っている。さらに、「数学ができるようになりたい」という生徒は、94%にのぼっている。数学に関する興味・関心の高さが窺える。

●今回の問題の中の「説明をする問題」をことばや数、式を使って最後まで解答をかこうとしたかという問いに関しては、県、全国平均を下回っている。しかし、「最後まで努力した」「中にはあきらめてしまった問題もある」を合わせると90%以上の回答率であった。

●「数学の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えますか」の問いに関しては、当てはまる・どちらかといえば当てはまるを合わせて、47.6%と半数を切ってしまった。

★指導の工夫と改善

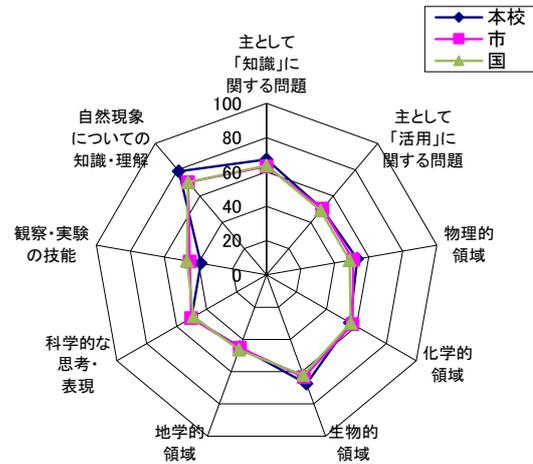
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学Aに関しては、市平均を上回り、全国平均よりは、やや下回っている。数学Bに関しては、市、全国よりも上回っている。 ○Aでは、加減乗除や一次方程式を解く問題に関しては、正答率が市、全国平均よりも高い。また、Bでの出題に対しては全問上回っている。 ●数量の関係を捉えて式をつくる問題や事象の理由を説明する問題に関しては正答率が50%を下回っている。	・基礎的な計算や各種方程式の解き方などは引き続き、技能を高めていくための授業の工夫をしていきたい。 ・問題を読んで立式したり、理由を説明したりする問題に関しては、授業の中で立式のしかたや説明のしかたの基本的な流れを定着させた上で、問題を読みとって考える課題を数多く経験させる指導をしていきたい。
図形	●数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○垂線の作図の意味や回転体、立体の読みとりでは、市、全国を上回っている。特に回転体の問題は、正答率が90%を越えている。 ●B問題に関しては、市平均と同等のものもあるが4問とも正答率が40%を下回っている。	・作図のしかたや平面図形や立体の性質をしっかりと理解させた上で、作図が正しいことの根拠の説明や図形の性質を記号化して標記することの定着をさせていきたい。 ・平面図形と空間図形を関連づけて考えたり、図形の性質や条件を使って説明や証明をしたりする場面を多くとり入れた授業の工夫をしていきたい。
関数	●数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ●関数の意味の理解、式で表すこと、グラフの読みとり等、市、全国より下回っている。二元一次方程式の問題では、市、全国を上回るものの正答率は44.8%である。 ○問題から必要な情報を収集し処理する能力を問う問題では市、全国よりも上回っている。	・関数の意味を理解することの定着を図ることが第1である。 ・2つの数量の関係から、表やグラフや式に表現できる力をつける指導の工夫を図りたい。また、逆に表やグラフや式から数量の関係を読みとる力をつける工夫もしていくことが大切である。
資料の活用	●数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○度数分布表から度数を読みとったり、起こりうる場合の数を求めたりする問題に関しては、市、全国よりも上回っている。 ●資料の傾向を捉えて処理したり、数学的な表現を用いて説明する能力を問う問題の正答率は低い。	・度数分布表の見方や相対度数の求め方の学習は、1年生の既習事項である。1年の既習事項を生かして2、3年でも他の単元と関連づけて学習ができるような授業の工夫をしたい。 ・実生活に密着した資料を扱うことで普段の生活の中で活用していこうとする力も身に付くのではないかと期待している。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	67.3	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	50.1	50.3	48.8
分野等	物理的領域	53.3	50.9	48.9
	化学的領域	55.8	57.5	56.2
	生物的領域	67.5	63.4	62.2
	地学的領域	44.9	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	50.1	50.3	48.8
	観察・実験の技能	38.6	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	78.9	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全体を通して、市や国の正答率を上回っている。特に自然現象についての知識・理解の項目では、高い数値となっている。また、今年度重点的に、科学的な思考・表現に努めた結果、市の平均にはわずかに届かなかったが、約半分の生徒が、正しい答えを導くことが出来た。

●項目別にみると、分野においては主に科学的領域や地学的領域、観点でみると観察・実験の技能の部分が、市や国の平均を下回っている。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	○市や国の平均を上回る結果となった。以前は、物理的領域に苦手意識を持つ生徒が多かったが、小テストなどを実施し、基礎の定着がはかれた。 ●記述式で答える内容では、正答率は高かったものの、無回答率が高くなっていた。	・実験をより充実させる必要があると感じる。その際に、ただ行うのではなく、なぜその実験を行うのか明確な目標や動機付けをすることが必要であると感じる。 ・実験の結果から考察する力をつけるために、個人で考える時間を設けるようにする。その際、文章の作り方の例などを示し、思考の手助けを行う。
化学的領域	○知識分野の正答率は非常に高い結果となっている。無回答の生徒もいるものの、記述問題などにも解答する生徒が増えている。 ●市や国の平均を下回る結果となった。計算問題などを苦手とする傾向が見られた。	・知識については、継続して小テストを実施する。また、課題を定期的に出すことで、基礎・基本の定着に努める。 ・実験の現象をとらえることが出来ても、どうしてその結果が出るのか、何が反応しているかを思考することが難しい単元なので、実験後の結果・考察にかけける時間を長く設ける。
生物的領域	○市や国の平均を上回る結果となった。生徒の多くがこの単元に興味・関心を持ち授業に取り組むことが出来ている。 ●単元の中でも苦手とする部分があり、その部分の正答率が低い傾向にある。	・知識や、実験、科学的思考の観点においてもおおむね平均を上回る結果を出すことが出来ているので、小テストなど、今後も継続させる。 ・1つ1つの実験の意図や結果を推測する力については、それらの実験を比較し、検討する場面を設け、応用問題も授業に取り入れる。
地学的領域	○正答率は市や国の平均よりも低かったものの、回答率はすべての問題において回答していることから、おおむねの知識はあると考えられる。 ●市や国の平均を下回る結果となった。	・実験で確認することが難しい単元で、どうしても説明が多くなってしまうので、視覚的にとらえられるように情報機器を使用する頻度を増やす。 ・それぞれの事象を想像させ、反て話し合いの場を設けるなど、思考を深める機会を多く持つ。

宇都宮市立宝木中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるかの質問では、当てはまると答えた生徒が全国、県の値を大きく上回って

83%の生徒が答えている。

○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意かの質問では、当てはまると答えた生徒は、25%であるがどちらかといえば当てはまると答えた生徒を合わせると60%の生徒が得意と答えている。

○将来の夢や目標を持っているかの質問では、56%の生徒が当てはまると答え、全国、県を大きく上回っている。

○学級では、友達同士で話し合っって学級のきまりをきめたり、また、みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったかの質問では当てはまるという答えが多くなっている。

○国語や数学の学習は将来社会に出て時に必要かの質問では、国や県を大きく上回っており、熱心の学習に取り組んでいると思われる。

○理科の授業において観察や実験をどのくらい行ったかの質問では、他が40%に対して70%と大きく上回り、実験データをもとに授業が行われて興味をもって学習にとりくんでいることがわかる。

●住んでいる地域の行事に参加しているかの質問では、ほとんど参加できていないとなっている。放課後や休日はほとんどの生徒が部活動に入部しており、なかなか参加ほ難しい。

●新聞を読んでいるかの質問では、全く読んでいないという答えが半分以上になっている。部活動や塾など、中学生も毎日忙しく、時間に余裕がない。

●2年生の時の授業で、授業のはじめに、目標が示されているかの質問では、はっきりあてはまると答えた生徒がやや少なく、どちらかといえばと答えた生徒が多く、教師側ははっきり目標を示して授業を進めるよう確認していきたい。